

認知症見立て塾

長南町認知症サポート医
ポプラクリニック
千葉大学医学部附属病院患者支援部 特任准教授
上野 秀樹

みんなの認知症情報学会 <https://cihcd.jp>

今回取り上げたケース

■70歳女性

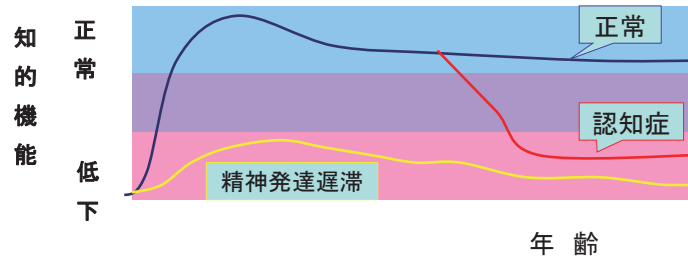
・65歳頃から物忘れが認められて、他院にて軽度のアルツハイマー型認知症と診断されて、抗認知症薬の処方を受けていた。

・68歳頃に健康診断で貧血が見つかり、外科に入院して消化管出血を治療。その後も2ヶ月に1回、外科に通院中。

- 2日前から夕食後に急に落ち着かなくなり、夜通しずっとうろろうろと歩き回ったり、そこら中の引き出しを開けて、何かを探していた。
- 話しかけても要領を得ず、返事がなかったり、トイレ以外の場所で排泄してしまったという。
- 翌日、本人に尋ねると夕べの出来事の記憶はほとんどなかった。その日の日中はきちんとトイレにも行けるし、以前と変わらずに落ち着いて過ごしていたので、「治ったのか」と思ったという。
- しかし、夕食を食べ終わった頃から再び様子が変わり、イライラして怒りっぽくなったという。
- 認知症が急に悪化したと考えて、都立病院を受診。

認知症とは

一旦正常に発達した知的能力が低下してしまい、物忘れや自分の周囲の状況がわからない、理解・判断力の低下などがあるために、日常生活・社会生活に支障を来している状態



認知症とは

- 認知機能障害
もの忘れ、自分の周囲の状況がわからない、
理解力の低下、判断力の低下
- +
- 日常生活、社会生活上の支障がある
→生活障害の存在

認知症とは

脳の機能が低下



認知機能障害

(記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下)



生活障害

(ADLの低下)

2日前の夕食後から

- 急に落ち着かなくなった
→不安、焦燥感
- 夜通しずっとうろうろと歩き回ったり
→夜間不眠、焦燥感、場所的な見当識障害

自分のまわりのことがわかること 見当識

- 自分のまわりのことがわかる能力
(時間—場所—人)
- 時間 →時刻、日付、季節など
- 場所 →自分がどこにいるのか
- 人 →自分の周囲にいる人が誰か

「時間」→「場所」→「人」の順に障害

- そこら中の引き出しを開けて何かを探していた
→記憶障害、不安
- 話しかけても要領を得ず、返事がなかったり
→注意力が低下
- トイレ以外の場所で排泄
→場所的な見当識障害、理解・判断力の低下
- 翌日、ほとんど記憶していない
→注意力の低下、記憶障害

ポイントは？

- 記憶障害、見当識障害、注意力の低下などの認知機能障害と、不安、焦燥感、易怒性などの精神症状が夕方から夜間にかけて悪化し、日中は改善すること

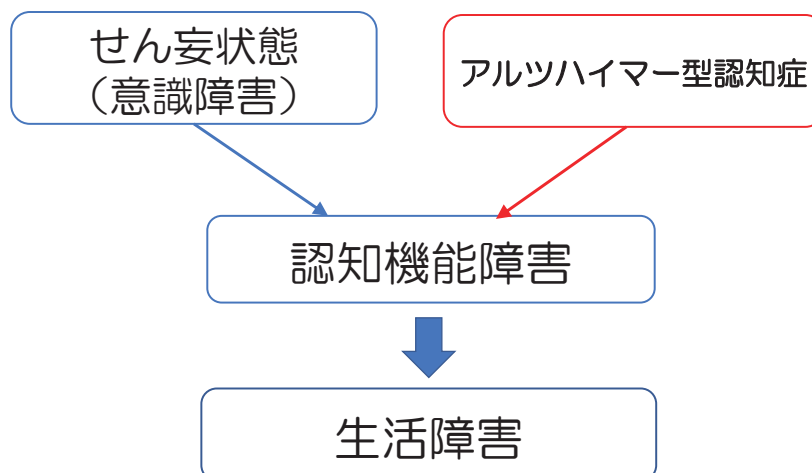
→いわゆる夜間せん妄状態

せん妄状態

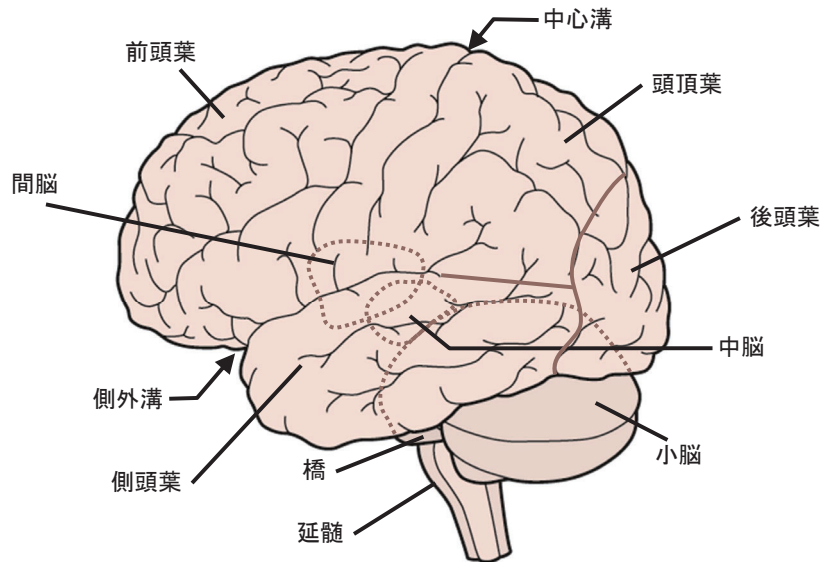
- 軽度から中等度の意識障害を背景にして、ありとあらゆる認知機能障害、精神症状が出現する可能性がある状態

■特徴

- ・夕方から夜間にかけて悪化することが多い
- ・症状が変動すること



脳の外側面(ヒト)



©みんなの認知症情報学会

13

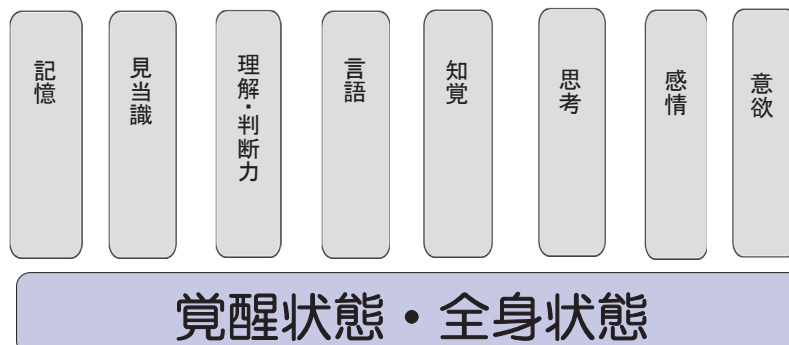
脳が正常な機能を果たすためには

- 覚醒していることが必要
- 神経細胞はエネルギーとして糖を利用
→ 血糖値が正常に保たれること
- 神経細胞は活動のために酸素が必要
→ 酸素濃度が正常であること
- 細胞の活動には酵素の働きが必要不可欠で、酵素は35-36度の環境下で最適に働く
→ 体温が正常であること
- 血液に異常がないこと
- 精神的ストレス、抑うつ状態がないこと

©みんなの認知症情報学会

14

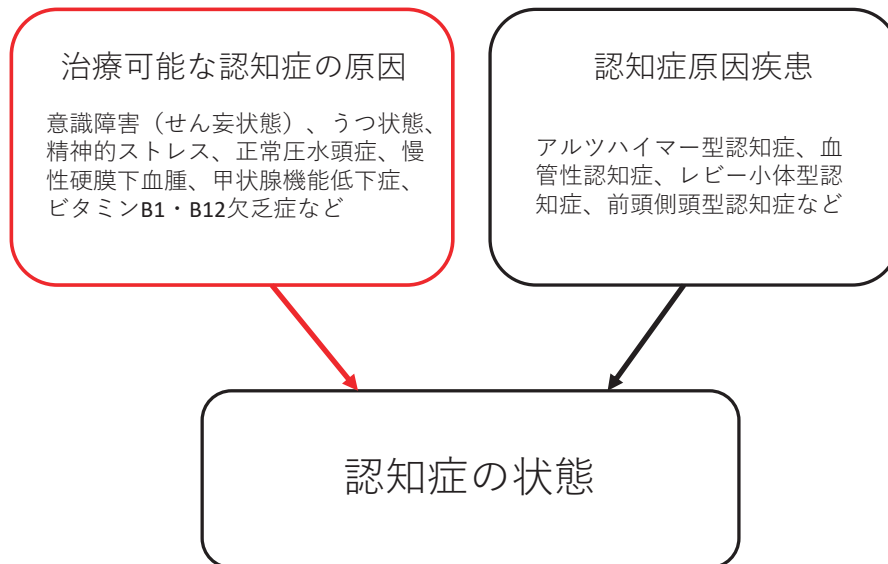
認知機能



せん妄状態による認知症

- 意識障害により脳の神経細胞の活動を支える「土台」の部分が障害を受けることで、神経細胞の機能が低下して、さまざまな症状（認知機能障害や精神症状）が出現する
→ありとあらゆる認知機能障害、精神症状が出現する可能性がある
- 脳の神経細胞の活動を支える「土台」の部分を元に戻すことができれば、元通りの状態になる ←改善可能な認知機能障害

図1：認知症の状態の原因



2022年3月29日13時半から15時

- 長南町主催の介護予防フォーラム開催が決定
- 場所 長南町中央公民館 講堂
- 詳細は3月号広報ちょうなんにて